

日本海水学会若手会第2回学生研究発表会を終えて

実行委員長 市村 重俊*

若手会第2回学生研究発表会を3月6日(日)から7日(月)に秋田市で開催しました。この発表会は、「大学4年生」および「大学院修士課程の学生」を対象としており、他大学の学生や教員、企業の技術者との交流を成長のきっかけにってもらうこと、研究の楽しさを知ってもらうことを目的として始めたものです。今回は、参加者の多くが現地に宿泊するだろうということで、宿泊形式で企画をしました。参加者数や天候を心配する声もありましたが、天候にも恵まれ千葉工大で開催した前回とほぼ同規模で盛会となりました(発表件数20件、発表会参加者54名)。お忙しい時期に参加していただいたみなさまに感謝致します。ここでは、参加者のアンケート結果も含めご報告させていただきます。

発表会は、大学コンソーシアムあきたカレッジプラザを会場に開催しました。まず、2枚のスライドで3分間のショートプレゼンテーションを行ってもらいました(写真1)。緊張で練習の成果が出せなかった人もいたようですが、自分や研究室の紹介とともに、懸命に発表内容を伝えようとする姿は好感が持てるものでした。続いて、2部制のポスター発表会(前後半各約1時間)に移りました。前回は教員が質問できないほど学生が積極的に質問をしていましたが、ショートプレゼンテーションの効果でしょうか、今回も専門分野にとらわれず、参加者全員が質問を楽しんでいる雰囲気が感じられました(写真2)。初めての試みではありましたが、本発表会の趣旨に合った形式ということでアンケートでも好評でした。

続いて、「醸造学」がご専門の岩野君夫先生(秋田県立大学)に「実験科学は新しい発見の可能性を秘めている-若手研究者への私の提言-」という題目で特別講演をお願いしました。普段の研究内容とは違い戸惑う人も多かったかもしれませんが、実験科学が新しい発見につながるという普遍的なことを多数の研究事例をもとにお話いただきました。研究成果を実用化につなげた例などは学生、教員を問わず刺激になったのではないかと考えています。



写真1 ショートプレゼンテーション



写真2 ポスター発表会



写真3 表彰式

その後、会場を秋田ホテルさとみに移して表彰式を開催しました。参加者の投票を集計した結果、最優秀賞は池田浩輔君(千葉大学大学院)、優秀賞は佐藤史奈さん(秋田県立大学)、三浦貴之君(横浜国立大学)、小俣孝徳君(工学院大学)が受賞しま

* 神奈川工科大学 〒243-0292 厚木市下荻野 1030

TEL: 046-291-3216, E-mail: ichimura@bio.kanagawa-it.ac.jp

した(写真3)。研究内容はもちろんのこと、優れたプレゼンテーション技術が評価されたものです。おめでとうございます。プレゼンターをお願いした長谷川正巳先生((財)塩事業センター海水総合研究所)には、引き続き「Hang in There! 若手研究者に期待を込めて」と題した講演をお願いしました。ご自身の貴重な体験をもとに「信頼をなくすと10年は取り返せない」など、若手への熱い思いをお話いただきました。

交流会では秋田の郷土料理を楽しみながら交流を深めました(写真4)。大学側からは中尾真一先生(工学院大学)と日秋俊彦先生(日本大学)、企業側からは東郷育郎理事(旭化成ケミカルズ株式会社)と石井健氏(ナйкаイ塩業株式会社)にお言葉をいただきました(交流会の様子を見る限り、教員間の交流に最も効果があるように感じました)。多くの方にはそのまま同ホテルに宿泊していただきましたが、アンケートの結果を見ると滅多にない機会を有意義に過ごしてもらえたようです。



写真4 交流会

翌日は早朝より秋田県立大学へ出発しました。事務の方の案内のもと、美しいキャンパスと充実した研究施設を見学させていただきました(写真5)。続いて訪れた小玉醸造所では、味噌と醤油の他、前日の特別講演と関連する日本酒の製造工程を見学しました。その後、道の駅で昼食をとり秋田駅経由で秋田空港に向かい解散しました。



写真5 見学会集合写真(秋田県立大学)

筆者を含め、研究室での教育に限界を感じている大学教員は少なくないと感じます。反省すべき点は多々ありますが、このような発表会を主催して今まで以上にその意義を感じています。この発表会には発表者として複数回の参加が可能です。もう一度参加したいと思えるものであれば、多くの人で共有した時間が本人だけでなく若手会や日本海水学会にとって貴重な財産となるのではないのでしょうか。交流会の席で中尾先生からいただいた言葉が思い出されます。「5回目までしっかりやれば10回目が、10回目までしっかりやれば20回目が・・・」、学会の規模や特徴を活かした発表会を今後も継続していければと考えています。

最後に、共催いただいた秋田県立大学のご支援とともに、副実行委員長として開催に多大なご尽力をいただいた石川匡子先生(秋田県立大学)に感謝します。松本真和先生(千葉工業大学)と正岡功士氏((財)塩事業センター海水総合研究所)には実行委員として支えていただきました。また、尾上薫会長(千葉工業大学)をはじめ学会の諸先生のご理解とご支援に感謝します。

発表会を終えて厚木に戻った11日(金)に東日本大震災が発生しました。昨年(2011年)の年会では、仙台で工場見学を、石巻で若手の集いを開催しました。若手会にとって無縁とは思えぬ出来事です。一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。